

[家保のページ]

新人6人、奮闘中！～新人防疫研修を通じて～

真庭家畜保健衛生所

1. はじめに

「農家さんの安全・安心を守りながら岡山県の畜産振興に携わりたい！」と意気込んで岡山県職員になってもう4ヶ月。学生気分はやっと抜けましたが、右も左も分からないまま先輩に連れられて日々農家を巡回しています。今年度、岡山県には各家畜保健衛生所に1名ずつと備中県民局に1名、計6名（男性2名、女性4名）の獣医師が入庁しました。卒業後そのまま入庁した人や社会経験の豊富な人など経歴は様々ですが、一様にフレッシュな気持ちで何事にも一生懸命取り組んでいます。

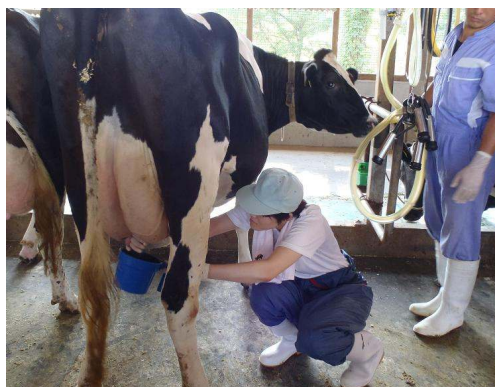
2. 防疫研修

先日、酪農大学校で若手を対象とした防疫研修が行われました。家畜伝染病予防法についての座学や、搾乳、保定と採血、暑熱対策実習など内容は様々でした。法律の改正により、学生時代勉強した内容も訂正して覚えなおしですが、久々の教室での講義は懐かしい感じがしました。



教室での久々の講義

生まれて初めての搾乳は悪戦苦闘で、酪農大学の学生さん達の手際の良さに圧倒されました。牛の性格や乳房ごとにこんなにも違いがあるのかと搾乳の難しさを知る一方で、農家の皆さんの苦労をほんのわずかですが知ることができたかな、と思います。貴重な体験で、今回の研修一番の思い出となりました。



搾乳実習

続いての保定実習。いつも農家の方や先輩をお願いしていましたが、これからは自分でできる！と意気込んで挑みました。不慣れな手つきで頭絡を作り、牛1頭保定するのに1時間も格闘し続け、やっと保定しても思うようにスッと血管に針が入りません。太陽が傾いた頃にやっと全員、完了しました。「農家ごとに飼育スタイルや配置が違うのだから、有事の際に備えて、日々の訪問1回1回を大切にしなければならぬ」とご指導いただき、日頃からの練習とイメージトレーニングの重要性を痛感しました。

わずかな研修期間ではありましたが、同期や先輩方との交流を深め、畜産の現場に触れられて良かったと感じています。

3. これからの目標

家畜保健衛生所の次世代を担う私たち。十数年後先頭に立っていけるよう、上司の方々から学ぶべきところは学び、技術の習得・研鑽に励みたいと思います。非農家出身の私たちですが、一生懸命がんばりますのでよろしくお願いします！



保定の練習



研修中の楽しい昼食タイム